



北海道木古内(きこない)町に到着!
木古内駅では、木古内まちづくり体験観光推進協議会の皆さんが子どもたちを温かく出迎えてくださいました。



木古内での体験活動の拠点となる最勝寺にも、子どもたちを歓迎する看板がありました。初めて訪れる場所で自分たちを待っていてくれる人がいるという嬉しい驚きに、この4日間の体験活動への期待が高まります。



最勝寺での歓迎セレモニー
4日間お世話になるスタッフの皆さんと対面。



4日間の最初の体験は砂金堀り!
木古内町のお隣の知内町を流れる知内川で、かつて大規模に行われていた砂金堀り。川の中から、小さな砂金を見つけ出します。



思った以上に、砂金はなかなか見つかりません。
それでも、みんな集中して砂金を探します。
中には、化石堀りに挑戦して、ゲットする子どももいました。



夕ご飯は、北海道名物のジンギスカンのバーベキュー!
まずは、炭で火を起こします。こちらもなかなか簡単にはいきません。煙と熱さに負けず、グループで協力して準備を進めます。



「いただきます！」
ジンギスカンと新鮮なホタテのバーベキューの味は最高でした。

7月22日(月) 交流2日目



就寝…
一つの部屋で全員で寝泊まりするのは、なかなか出来ない貴重な体験。仲間同士の結束も強まります。



早起きして、搾乳体験に挑戦。
「働いている人たちが実際に作業する時間に子どもたちも体験する」ことが積迦内小学校の体験活動の基本。
「働くこと」の大変さと食べ物のありがたさを子どもたちは体感していきます。



実際に牛に近づくと、その体の大きさと迫力に圧倒されます。
さらに、触ってみるとその体の温かさにびっくり！
牛と触れ合い、その温かさを体感したことで、子どもたちは、牛乳を飲む事は「命をいただいている」事なのだ改めて感じる事が出来ました。



搾乳に挑戦！
最初は、なかなか乳が出せなかった子どもも、コツをつかんで、上手に出せるようになりました。
「自分が飲む牛乳の量を出すには大変な苦労がある」と感じた子どももいました。



子牛のお世話もさせていただきました。ミルクをあげると、力強く吸い込みます。
「元気に育ってね」
これからの成長が楽しみです。



牧場の風景といえばこの「ロール牧草」。
子どもたちの身長と同じくらいの大きさです。



最勝寺の和尚さんからお話を聞きます。



姿勢を正してお話を聞いていたため、足がしびれてしまった子どもが続出！



次は漁業体験！
ホタテ貝の養殖を体験しました。かごの中にホタテの子どもを入れて放流します。この日はあいにくの雨模様ということで、放流は出来ませんでしたが、漁業に従事する地元の方から、ホタテ貝の成長過程などを教えていただくことができました。



子どもたちが楽しみにしていた漁船の乗船体験。
小雨の中、漁船の前に陣取り、いざ出発！
動き出すと、想像以上のスピードにびっくり。



かなり激しい高波が子どもたちの乗った漁船に！
「漁師の人たちは、こんなにも大変なことをしているんだ」と海で働く人たちの苦労を体感することができました。



ずぶ濡れになってもこの笑顔！
山間部である大館市に住む子どもたちにとっては、海での体験は、何もかも新鮮でわくわくする体験です。



木古内町立木古内小学校の6年生と交流。
まずは、学校の体育館でグループに分かれて一緒に給食を食べました。初めは恥ずかしがってなかなか話しかけられませんが、お互いの学校や町、自分のことなどを情報交換し合いながら距離を縮めることができました。



場所をスポーツセンターに移動して、ミニバレーボール大会。
今年、釈迦内小学校と木古内小学校の子どもたちが混合でチームを作りゲームを行ったことで、さらに仲良くなることになりました。



雨のため、予定していたパークゴルフ体験の代わりに、乾燥させた海藻などを使って写真立てを作りました。一言で海藻と言っても色々な種類、形、色の海藻があり、みんな集中して作業していました。



完成！
木古内での良いお土産が出来ました。
「動」の活動が多い4日間、このような「静」の活動は、子どもたちが、ちょっと一息入れることが出来る貴重なひとときでもあります。



今日の夕方からいよいよ民泊が始まります。
4泊5日分(函館1泊分含む)の荷物を入れた大きな袋から、今日と明日の着替えなどをリュックに詰め込みます。
自分の荷物を自分で整理・整頓、管理することも、子どもたちにとっては貴重な体験です。



2日間お世話になる民泊先のご家族との対面式。
「2日間、よろしくお願いします。」



さあ、それぞれの民泊先へ出発！！
初めて会う方のお家に泊まるのは、もちろんみんな初めての体験。
期待と不安が入り交じます。



こちらは夕ご飯の様子。
とっても優しいお父さんお母さんと、美味しいご飯に子どもたちの顔もニコニコ。



こちらは夕ご飯の後のひととき。もうすでに、かなりリラックスしています。

(民泊に関する子どもたちの感想より)

- ・一番印象に残ったのは民泊。最初は心配だったけど、段々と楽しくなってきた。民泊の方とお別れするのは、本当に寂しかった。
- ・民泊は、本当の家のようにとても楽しかった。
- ・民泊で初めて会う方のお家に泊まって最初はドキドキしたけど、慣れると、泊めてくれてありがとうという気持ちになった。「ありがとう」という気持ちの大切さを知った。
- ・木古内の人たちの温かさや優しさを自分の体で体験することができた。特に民泊先の人たちの温かさや優しさを感じた。
- ・民泊先の方が私たちに家族のように話しかけてくれて、民泊先になじむことができた。
- ・沢山の体験の中で、今後の生活に役立つと思ったのが民泊。お手伝いや布団の片付けなどをたくさんしたので、今後の生活に役立てたい。

(民泊に関する保護者の感想より)

- ・特に民泊が一番の思い出になったようで、お世話になった方のお話をいっぱい聞かせてくれ、私までもが会いたくなったほど。
- ・民泊先で優しくしていただいた事に、とても感謝しているよう。木古内におじいちゃん、おばあちゃんが出来たと喜んでおり、それまで全く知らなかった相手に親切にすること、人とのつながりや絆について体験できた事が、親としても良かった。外に出て、家族のありがたさも知る事ができたよう。
- ・4泊5日という長さや、民泊を親が不安に思っていたが、出発前の子どもは楽しみで仕方がなく、帰宅しても、「もっと泊まりたかった」と話していた。日々の生活からも親の手を借りなくなり、たくましく成長した姿が見られる。
- ・民泊が一番心に残っている。民泊先の方からのハガキも机に飾っており、大切にしている。「また、木古内に行きたい」「家族みんなを木古内に連れて行きたい」と話しており、4泊5日は長いと最初は心配だったが、充実した内容で、親元を離れて良かったと思う。
- ・今回、家族が一番心配したのが民泊だったが、子どもに一番楽しかった事は何か聞いたら、意外にも民泊だった。受け入れてくださった方の優しさに触れ、友だちと2日間寝食を共に出来たことが良い思い出になったよう。